

日本 ハンザキ研 究所ニユ - ス 2008(6) : 通巻 No . 29

発行 2008年5月31日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川 292

Tel / Fax: 079-679-2939

E-mail : j-hanken@sasayuri-net.jp

日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....

コウノトリ シンポジウム

22日に豊岡市民プラザで開催されました。ここへなぜかハンザキにもお呼びがかかったのです。これは環境大臣会合関連事業・国際生物多様性の日記念事業として環境省などが主催してのイベントでした。しかし、その講師連の名を見て驚きました。まずは基調講演の岩槻邦男先生ですが、東京大学教授から兵庫県立人と自然の博物館長は植物学の権威で、「生物多様性の重要性」、東京大学大学院教授の鷺谷いづみ先生は、目下は外来生物問題といえれば必ずお名前が出てきますが、サクラソウが専門だそうで「地域で取り組む生物多様性の保全」というタイトルでした。

記念講演は里山の写真家として有名な今森光彦さんで「私、今森光彦が見た人と生きもの」そしてハンザキの出番はコウノトリの郷公園田園生態研究部長の池田啓さんの「コウノトリと生き物がにぎわう里」に続く「オオサンショウウオのくらしやすい川づくり」でした。また、その後の対談ではコウノトリの郷公園長の増井光子さんとコウノトリ・ファンクラブ会長の柳生博さん、今森光彦さんとコーディネーターにコウノトリ野生復帰推進連絡協議会会長の保田茂さんという豪華なメンバーでした。

この中で無名の私がコウノトリではないのにハンザキで講演するのは違和感がありました。しかし、私は同じ特別天然記念物であるハンザキがコウノトリに比べると日陰の存在に置かれていることを少なからず不満に思っていましたので、よい機会とばかりに講演を引き受けたのです。講演の中でも言いましたが「トキは中国の・・・」「コウノトリはロシアの・・・」そして「オオサンショウウオは日本特産」の生き物なのです。皆さんはいかがお考えでしょうか？コウノトリはいいですね、見に行くと優雅な姿で大空を舞っています。一方でハンザキは夜行性で水中生活の上に優雅とは言いがたい姿をしています。これでは勝負になりませんね。そこで私は頑張ったのです。会場は定員オーバーの超満員になり、皆がみなコウノトリのファンでテレビで著名な柳生さんを目当てに来場しているのです。

私の講演の概要を次ページに記載しますが、かなりハイになっていたようで、同行した研究所のメンバーが「あんなに力んでいるのを見たことが無い」と後刻話してくれましたが、私自身も途中で今日は少々ボリュームが大きすぎるかなと思ったものの、途中でトーンダウンする気にはなれなかったのでそのまま続けました。後日、ハンザキ研に来られた谷口但馬県民局長さんにも迫力のある講演でしたと冷やかされました。

「オオサンショウウオのくらしやすい川づくり」 講演からの抜粋

「皆さんは野ウサギが川を泳いで渡るのを見たことがありますか？」と私は切り出したのです。一瞬、会場はシーンとなりました。当然のことかもしれませんがオオサンショウウオの話が始まると思っていた皆さんが意表を突かれたというか、いきなり何を言い出すのかと不審に思われたのかもしれませんが、でも、私はその日の朝、そのシーンを目撃したのです。午前5時、日課であるハンザキ研の構内パトロールに出かけた時でした。フェンスの外の野ウサギと目が合ったのです。ノウサギより私の方が早く気づいたので取りあえずシャッターを押しました。ウサギも気づいて河原へ降りていきましたが、そのままドンドン上流のほうへ走っていきます。先回りして橋の上で見ていると川に飛び込んで泳ぎ始めたのです。デジカメのモニターは後ろからの朝日で見えませんがとにかく押しましたが1枚だけなんとか写っていました。ウサギと水は縁の無い関係かと思いついていたのですが野生のたくましさでしょうか、見事に20分ほどの対岸へ泳ぎ着きました。濡れネズミならぬ濡れウサギは藪に潜んで毛づくろいをしていましたが、真上からは丸見えでした。

何でウサギの話をしたのでしょうか？ハンザキ研の自然豊かなことを言いたいのと同時に、ヒトと自然は対立する存在になってしまっていることを改めて考えていただきたかったからです。人と自然の共生それは人類が地球上に姿を現した頃は、ヒトも自然の一部、仲間だったのでしょ。それが、今では相反する存在になってしまっているのです。ウサギは驚いたことでしょう。私がそこにいなかったならば泳がなくても済んだのかと思います。自然が豊かだといってヒトが入り込めば少なからず自然を壊すことにつながってしまうのは残念なことです。私たちヒトはもう少し遠慮することを考えねばならないのだと改めて訴えたかったのです。

オオサンショウウオの暮らしやすい川づくりの話は、これまでに私がタッチしてきた事例の紹介です。兵庫県では、建設省が多自然型工事の通達を出した平成2年に養父町を貫流する建屋川（たきのやがわ）で大きな災害が発生しましたが、ここで画期的な事業を展開したのでした。私も水族館の飼育係として初めて専門外の河川工事の世界に首を突っ込むことになったのです。この工事では230個体ほどのハンザキを3年くらい飼育して原状に復帰させました。当時の建設省の通達が出たばかりの時期に啓発の大きな役割を果たすことができたと考えています。それから、河川法が改正され環境が3本柱にが加えられたのは平成9年のことです。そして、平成16年の台風で豊岡市の出石川で破堤という大災害があり、400匹を超えるハンザキが救出され、建屋川を上回る大規模な対策工事が今年の3月に竣工しました。そして、現在進行中なのが市川の生野ダム下流における河川の付け替え工事です。この3例の工事では、工事後の追跡調査を実施、今後の河川工事への良き模範となることでしょう。



写真1 コウノトリシンポジウムのポスター

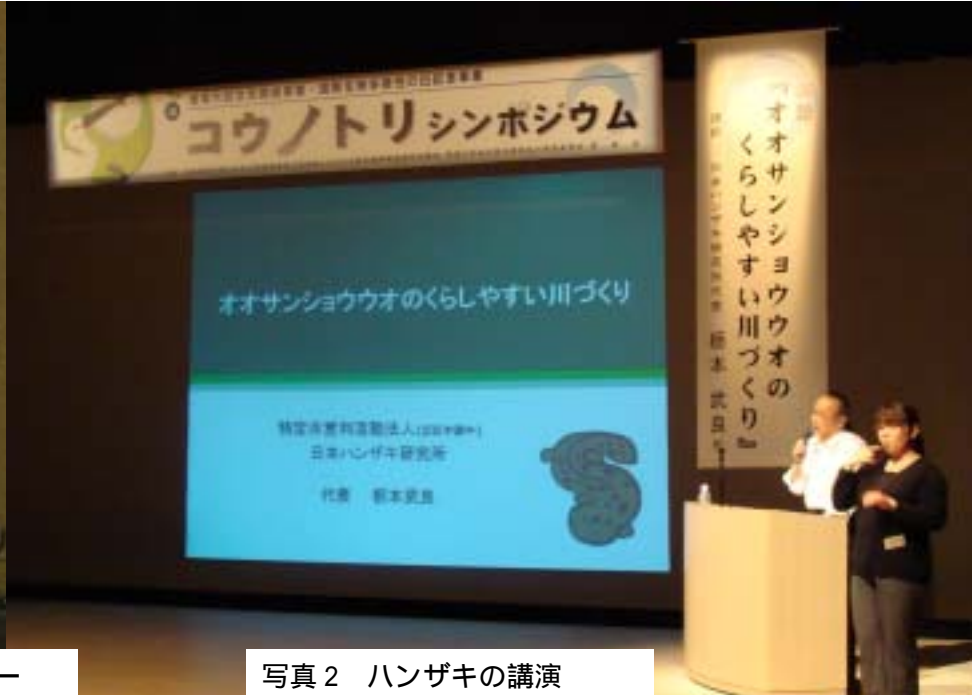


写真2 ハングキの講演



写真3 対談:コーディネーターの保田さん(左)と今森さん



写真4 同じく:増井さん(左)と柳生さん



写真5 道端に看板を



写真6 見学者への解説

野ウサギ 川を渡る！



写真7 フェンスの外のウサギと目が合う



写真9 対岸に泳ぎ着いた濡れウサギ



写真8 川を泳いで渡るノウサギ



写真10 藪に隠れて・・・

ゴールデンウィークにおける「あんこうミュージアム」公開実験

今までもフリーの飛び込み客に対して可能な範囲で案内や解説を私が一人でやってきました。それは、できるだけ多くの方々に知っていただきたいという思いがあったからです。NPOの事務局員から、試験的に積極的な呼びかけをしてみようという提案があり看板を道路端に出して数人が対応できるような態勢で実施してみました。

3日(土)	スタッフ4人	見学者	7組16名(内小人 3)
4日(日)	5人	25組	88名(31)
5日(月)	7人	13組	29名(0)
6日(火)	2人	15組	48名(15)

以上の結果でしたが、4日の急増は看板の工夫が大きな効果を生んだようです。子供の日はいにくの雨天でした。何の前宣伝をしたわけでもなく、まったくフリーの通行人(車の観光客)相手でしたので反応の大きさに改めて驚きました。ただ、正午前後の数時間に集中的に見学者が来るので昼食もままならぬ状況で、6日のようにスタッフ2名では懇切丁寧には対応しきれません。それでも1組の案内に1時間ほどが必要であり、スタッフの勉強もまだまだ求められるので、それを補う対策が必要であった。案内ルートは確立できたがハンザキの生態や河川工事に関する資料を準備しておくことで解決していくつもりである。

強力な助っ人登場

24時間観察・録画カメラ・・・40万円

昨年のハンザキの繁殖期(9月上旬)には、せっせとハンザキ橋からアンコ淵を観察して、斑紋の違う個体が出現すると捕獲しては繁殖グループに登録するという時間と体力をかけた調査をしました。その結果がアンコ淵の黒主()の他に6匹の、3匹のの合計10個体を記録しました。メス3個体が全て巣穴に入ったかどうかは分かりません。オス7個体のバトルも一部しか確認できていません。そこで今年は研究助成を受けてカメラの設置とパソコン(研究室と宿泊所)で観察・録画(24時間7日間可)を実現させました。色々改善しなくてはならないこともありますがなかなか強力な助っ人です。

100万円の複写機

このハンザキ研究所ニュースは、コイン・コピー店で作成してきました。モノクロで5円×5ページ+カラー1ページ30円で55円の実費です。500部コピーすると結構な経費がかかります。セブン-イレブンみどりの基金の助成申請をしたところ受理されました。自前の複写機で実費がいくらになるの分かりませんが、かなり安価になったのは確かでしょう。一度に大量にコピーしておかなくても、必要に応じていくらでも作成できます。また、パネルなどもカラー写真では退色が激しいのですがコピーしたものはかなり長時間色があせません。強力ですね。

ハンザキ研日誌

2008年5月

- 2日 オオサンショウウオ保護センターの日常管理が株式会社立雲となる
- 3日 ゴールデンウィークのあんこうミュージアム公開実験
- 7日 兵庫県姫路土木事務所・県庁河川課来所、市川水系流域委員会の件で
- 8日 兵庫県豊岡土木事務所来所、出石川のオオサンショウウオの件で
- 10日 日本工科専門学校生実習に来所、サンTV取材、14日放映
- 12日 県庁地域協働課へNPO法人認証の申請
揖保川水系さかながのぼりやすい川づくり委員会、姫路にて
- 13日 GS - 266 (あこバスにて来所) ~ 24日
- 14日 シュレーゲルアオガエルの水田浮遊卵塊採集、水田のすき返して浮いてくる
- 15日 国交省豊岡河川国道事務所、建設技術研究所来所
- 16日 助成による複写機納入
オオサンショウウオの会・開催地実行委員会開催
- 19日 モリアオガエル今期初産卵 (構内のモリアオの池で)
- 20日 但馬信用金庫助成決定通知書交付式、豊岡市にて
- 22日 コウノトリシンポジウム・講演 (豊岡市にて)
出石川のハンザキ最終放流
- 23日 モンドリ定期調査
- 25日 愛知県瀬戸市蛇ヶ洞川ハンザキ調査 ~ 28日
瀬戸市レディオ3Q・FM放送出演
- 30日 GS - 267 (6月12日まで)
- 31日 生野小学校・奥銀谷小学校連合自然学校5年生41名へレクチャー
イベント「新緑の黒川トレッキング」荒天のため中止

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

私が新米教師をしていた東京芝公園にある芝学園の生物部 OB 会は4年ごとにオリンピックのある年に集まりを開いている。会長はテレビ「なんでも鑑定団」の中島誠之助さんである。古伊万里焼が専門だそうです、高校時代は生物部に所属し大学も水産を学んだと聞いて驚きました。今年も11日に集まりがあったようですが、欠席しました。2年間5学年の生徒と共にクラブ活動に取り組みましたが45年も前のことになり、教えていた一期生も60歳定年を迎えました。早いものだとわが身も振り返っています。そろって生野のハンザキ研へ来るといっていますがいつになりますか？

この印刷物は、「セブン-イレブンみどりの基金」の助成により作成しています。